

国内外規格・認証制度研究会(第21回) 議事録

日時:2011年11月18日(金) 15:00~17:30

場所:富士通総研会議室(竹芝)

出席者(敬称略):折笠、高橋(哲)、日下、石川、大塚、有園(記録) ... 6名

(1) 最新情報共有(BCAO情報等)

座長:折笠、副座長:高橋/有園の研究会新体制(案)と折笠座長の幹事就任が9月27日のBCAO運営会議で承認された。

(2) 研究テーマ発表

東日本大震災における事業継続行動の経験と教訓を踏まえ、ISO規格の内容を考察する。

日下:ISO 22301 PCMS要求事項

- ・本規格の特徴は形式より実効性を重視。但し、具体的なレベルまでは各組織に一任しており、第三者認証としては不適である。評価できる資格者も少なく、内容の是非を正しく評価できないと思われる。
- ・手続きに関する規格のため、条件を満たしてもBCの実効性を確保したことにはならない。
- ・BCの実効性は、手続きよりも具体的な内容(方針、戦略、対策等)によるところが大きい。
- ・規格の要求事項としては理解できるが、内容が細かく項目数も多いと感じる。
- ・国際的な普及が不透明である。

高橋(哲):ISO 22320 指揮調整

以下の分類で規格と福島原発事故における政府及び東京電力、各自治体の活動を考察した。

a)規格にあり実現された規定

- ・該当なし

b)規格にあるが実現されなかった規定

- ・目標設定、ローでの意思決定、権限委譲、情報伝達、指揮系統、役割責務、組織間の協調等

c)規格になかったが実現された好例

- ・該当なし

d)規格になかったが実現されるべきだった理想

- ・社会への意思決定の伝達(「適切な場合には・・・望ましい」との記載に留まる)
- ・活動情報に関する指針(一般公開についての指針が全くない)
- ・情報の公開、透明性を内容に盛り込むべき。
- ・災害が複合的(自然災害、原発事故、放射線漏れ対応)な場合の調整(優先度、責任、利害、目標)
- ・私的利益の優先度(廃炉の決断が遅れたことにより水素爆発を防げなかった)
ISO22397で「危機事象における優先順位を合意しておく」などのガイドラインが必要と思われる。
- ・コマンダー、対応リーダーの資質、スキルの明確化
災害対応と通常のマネジメントは別の資質、スキルが必要。どのようなスキルを訓練しておけばいいのかについてのガイドラインが必要と思われる。

本規格の内容は現実的な問題を網羅している。組織は本規格をキャッチアップすることが重要。

石川: ISO 22398 訓練と試験

- ・本規格はエクササイズについての必要な手順について記述され、参照することで組織のレジリエンスの向上が期待できる。
- ・災害エスノグラフィーは災害の教訓を活かすことができ、組織のレジリエンス向上に有効である。

(3) 次回の開催予定

- ・日時: 2012年1月20日(金) 15:00 17:30 (富士通総研会議室: 竹芝)
- ・議題: 研究テーマ発表等
 - 三島 ISO 22322 警報システム
 - 増田 ISO 22397 官民連携
 - 有菌 ISO PAS 22399 IPOCMガイドライン
 - 田代 ISO 27031 事業継続性のためのICT
 - 折笠 ISO 31000 リスクマネジメント原則・指針

以上_